



傍陽線曲尾駅

しらかば通信

東京真田町の会 No.23



傍陽駅：左奥には傍陽農協

東京真田町の会 第32回総会と懇親会のご案内

春暖で快適の季節となり、花の便りも聞かれるようになってまいりました。皆様には健やかにお過ごしのことと存じます。東京真田町の会の運営につきましては、いつもご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、恒例の集い「第32回総会と懇親会」は、例年と異なり現天皇が退位され新天皇の即位と新元号で時代が変わる5月に記念すべき「総会・懇親会」を下記の通り開催することになりました。ふるさとからも多数のご来賓をお迎えして郷里の発展現況をご紹介いただくとともに、皆様と懇親を深めたいと思います。

この懇親会では、東路流「あずまじキッズ」で活躍しているお子様方に華を添えていただきます。

会員の皆様におかれましては公私共にご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席くださいますようお願い申し上げます。

2019年3月31日 会長 金子 誠

ご注意 今回から受付時刻および総会時刻を 例年より30分早めて おりますのでご留意ください。

記

期 日 2019年5月19日(日)
会 場 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
5階 穂高の間
千代田区九段北4-2-25, Tel 03-3261-9921(代)
受 付 11:00より
総 会 11:30~12:10
休憩のあと出席者一同の写真撮影
懇親会 12:30~15:00(歌謡等お楽しみ含)
懇親会費 7,000円
年 会 費 1,500円(平成28年度より)
出欠のご連絡方法

同封の返信葉書で4月20日(土)までにお送り下さい。① 締切り後に出席を希望される方は、返信葉書または電話でご連絡下さい。② 演歌や民謡を披露される方は 返信葉書へ演題目や曲名をご記入ください。

懇親会のアトラクションでは、世田谷区の日本舞踊あずまじキッズで稽古に励んでおいでの方々にご登場をお願いして、春宵の席にはなやかな彩をご提供頂きます。多くの会員皆様のご出席をお待ち申し上げます。

[そのほかのご案内]

- 返信葉書へ記入された近況等を本年12月発行予定の日本ダボスNo.32へ掲載します。
- 参加申込後に「欠席」へ変更するときや、他のお問合せでは、次の担当者いずれかへご連絡下さい。
会 長 金子 誠 Tel. 048-591-4728
副会長総会担当 柴田小夜子 Tel. 03-3467-4035
事 務 局 神田 幸雄 Tel. 042-721-9975
- 会場までの交通(次の各駅から徒歩約2分です)
 - 地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅(出口は1またはA1)
 - 地下鉄新宿線 市ヶ谷駅(出口はA1またはA4)
 - JR中央総武線 市ヶ谷駅



一会の行事

(1) 親睦旅行会

ふるさと訪問 ― 真田町一巡と

温泉の旅(お知らせ) ―

今秋10月27日(日)・28日(月)、鹿教湯温泉郷「鹿鳴荘」に宿泊し、生まれ育った町の長・傍陽・本原・菅平をめぐるとの計画です。昨年開館した「菅平高原アリーナ」を見学、思い出深い各地区の小学校への立ち寄り、そば打ち体験などを企画しています。大勢の皆様に参加して頂きますよう、お待ち申し上げます。

会長金子誠 048-591-4728

(2) 四季めぐり

① 神代植物公園と周辺の散策(通4)

花見ごろの植物に誘われて深大寺あたりも散策します。京王線調布駅から植物公園まではバスで20分ほどです。これは都内唯一のもので鑑賞に向く時は5、6月ですが、いつでも楽しめます。隣には深大寺、蕎麦処や天然温泉「湯守の里」があります。

実施詳細を総会でお渡ししますが、欠席された方は一之瀬へご請求下さい。本会から費用補助はありませんので、ご家族や友人をお誘いのうえご参加下さい。事前に参加申込される必要はありませんので、案内図の集合場所へおいでください。小雨決行ですので雨具などをご持参のほどお願いします。

(調布駅から京王バス深大寺行き「神代植物公園」下車、同公園の休園日は月曜日、入園料は65歳以上250円) お問合せは左記までご連絡下さい。一之瀬和夫 042-776-1733

(3) ゴルフ同好会

① 春季大同ゴルフコンペ

このご案内は3月上旬にお手元に届いております。今年も本会と上田会との合同で4月17日(水)集合8:30、例年のように会場は八王子の武蔵野ゴルフクラブ(042-691-2111)です。お問合せには次の担当理事があたっています。

荻原啓治 03-3331-5930

② 秋季合同ゴルフコンペ

10月から11月にかけて上田会と合同で開催の予定です。ゴルフ同好会員の皆様には開催一カ月前頃にご案内を差し上げます。同好会以外の方のご参加も歓迎しますので、次の担当理事へお問合せ下さい。荻原啓治 03-3331-5930

二 ふるさと便りから

(1) 平成31年新成人93名誕生

1月13日(日)、上田市内の七会場で開催されました。該当者は、平成10年4月2日から11年4月1日生まれの1637名で、このうち191名がそれぞれの会場に集いました。真田中央公民館の式典は12名の新成人実行委員(男性7名女性5名)の手で企画・運営されました。新成人93名のうち83名が祝慶に集いまし

た(p.3の上段は慶びの雰囲気)。

華やかな振袖やスーツで装った若人は家族や恩師、地域の方々から期待の祝福をうけ、感謝と新たな誓いを胸に、社会の荒波へと希望の航海に発ちました。

(2) ふるさと小・中学校の

新入生数(平成30年度)

中学校の新入生数は89名(平成29年度は91名)、小学校のそれは78名(同77名)です。

表1 平成30年度真田地域小・中学校入学者数

学校名	男子/人	女子/人	計/人	平29年度/人
菅平中学校	3	4	7	(5)
真田中学校	32	50	82	(86)
中学校生徒数計	35	54	89	(91)
菅平小学校	2	11	13	(15)
長小学校	17	10	27	(18)
傍陽小学校	5	9	14	(10)
本原小学校	11	13	24	(34)
小学校生徒数計	35	43	78	(77)

自治センターだより[さなだ 5.16, No.62]。入学式平成30年4月5日

日から見学を訪れる小学生や撮影者で賑わいます。

ねじつくりでは、うるち米粉を原料とし、これを練って蒸したあとあんを入れ彩色や造形をします。これをさらに蒸かしお飾りにします。いくなれば、ねじり造ったものである。「ねじ」と呼ばれたのでしよう。木台車に載せた藁馬の背にねじを納めた藁筒を結わえ、母子はこの車を道祖神まで引き無病息災を祈願し、お互いにねじを交換するのです。2018年まではこの行事を2月8日に行ってきたが、「行事を行うこと、さらに参加しやすいこと」に重きをおいて戸沢自治会は、2019年から2月の第二日曜日に実施することにしました。今冬はこの行事を2月10日(日)に行いました。

謝辞 行事の紹介にあたり、柳沢章夫様からは貴重な図書のご寄贈を受けるなど、懇切丁寧なご教示をいただきました。ここに厚く御礼を申し上げます。

(注1) 国選形民俗文化財(平8年11月28日)。(注2) 北澤志織、藁馬行事の民俗学的考察、天理大学考古学・民俗学研究室紀要第21冊、2017(平29)年3月31日、pp.10-25。(注3) 「編著」戸沢魅力アップ事業実行委員会代表柳沢章夫、「書名」ねじとわら馬引きの里 戸沢、「発行年」平24年3月2日、(株)アオヤギ印刷。

〈関連の写真を4頁と5頁下段に掲載〉

(3) 戸沢のねじ行事(注1)

春まち遠しい2月、戸沢の藁馬引きには、ほかの地域で見られない(注2)(注3)、「ねじ」行事があります。子どもの健やかな成長を願ったこの伝統行事には、前

三ふるさとの話題

(1) 上田市に匿名市民の寄付

地方紙と全国紙の新聞を挙げます。

① 信濃毎日新聞2019年2月19日(火)

第一面に左記の記事、および同紙21日(木)のコラム「斜面」には城跡や櫓の概要遷史が紹介されています。

匿名市民が寄付



上田城跡の南櫓(左)と復元された東虎口櫓門

市民有志らでつくる「上田・城下町活性化」も昨年12月上旬、同じ趣旨で市に100万円を寄付している。市は、二つの寄付を上田城跡一帯の整備に充てる基金に積み立てる補正予算案を25日開会の3月市議会に提出する。

市、基金に積み立て方針

上田市に10億円

上田市は18日、上田城(国史跡上田城跡)にかつてあった櫓の復元などに役立ててほしいと、市民1人から昨年12月末、10億円の寄付を受けたと明らかにした。寄付者が匿名を強く希望しているとし、性別や年齢などは公表していない。市の本年度のふるさと納税の見込み額約1億5000万円の7倍近い額に当たり、市教委は「市として過去に例のない多額の寄付。寄付者の要望に添えるよう努力したい」としている。

戦国大名真田昌幸により1583(天正11)年に築城が始まった上田城は、関ヶ原の戦い(1600年)の後、徳川方に破壊され、その後藩主となった仙石氏が復興。江戸時代に七つの櫓があったとされるが、明治期に民間に払い下げられるなどしたため、現存するのは北櫓、南櫓、西櫓の3棟のみ。1994年に北櫓と南櫓の間に東虎口櫓門を復元。市教委は残る四つの櫓の復元も目指したいとするが、櫓が現存した当時の写真や詳細な図面が見つからず、具体的なめどは立っていない。

上田城の櫓復元に役立てて

斜面

2019.2.21

明治初期に「廢城」とされた上田城は建築物や土地が民間に払い下げられた。櫓は十歳より低価格だった。7

棟のうち2棟は市街北にできた遊郭に移築、貸座敷に使われた。他は解体され残ったのは西櫓のみ。古城の面影は失われた。住民らが保存に立ち上がった。材木商丸山平八郎直義は、先代が買い取り保有していた本丸の土地計9千坪を遊園地などの用地として旧藩主に寄付。西櫓も献納した。江戸期の建築の西櫓が現存するのも、城跡公園が整備されたのも、これが礎になった。直義が遊園地にこだわったのはなぜか。明治初めに百姓一揆が起きた。暴徒が家財を川に投げ捨て妻が拾い集めた。妻は流産し19歳で命を落とした。母と子がいつでも遊びに行けるような遊園地ができることを願った。新刊「信濃上田城」で編著者の和根崎剛さんが書いている。遊郭にあった2棟の櫓は1941年、東京の料亭への転売話が浮かぶ。翌年発足した上田城址保存会は城跡への復元を目指し1800円で買い戻した。大戦末期の中断を経て戦後に再開。寄付金は70万円余に上り49年に完成させた。現在の南櫓

と北櫓だ。戦国の名将真田昌幸が築いた名城も関ヶ原の戦い後、徳川方に破壊された。江戸初期の藩主が再建した城も資力が乏しく、市が目指す櫓4棟を復元する道は険しい。後押しするように昨年末に上田・城下町活性化会が100万円を、匿名の市民が10億円を寄付した。市民の心意気が頼もしい。

ここで、復元について文化庁の方針(2015年から)を引用します。

「歴史的建造物の復元」にあたっては、当時に存在したものが図面などの根拠をもって忠実に復元できない場合は、工事が認められない。

これから全国的規模で詳細な情報を蒐集することになるでしょう。明治初期まで存在していたので櫓の見取り図や、古写真など存在している資料から復元の糸口を見いだすこととなります。

ところで、「復元に必要な資料等」を揃えることができたとしても、厳しい建築基準法(耐震、強度、消防法等)があるので、できるものは「復元」からは離れたものになるでしょう。このようなことから、図上で復元(復原の意味とは異なる)することと建築基準に則して成すこととは互いに相容れないことになりました。このことは、博物館をつくりましよう、ということとはたいぶわけが違います。この点、復元の主体である教育

委員会の英知と実行力に期待するとこ
ろ大きく、応援しております。

② 朝日新聞2019年2月20日(火)朝刊
第一面に次の記事が掲載されました。

「上田城跡に櫓を」市に10億円寄付 長野・上田

長野県上田市は18日、市内に住む個人から10億円の寄付があったと発表した。寄付者は、国史跡・上田城跡の櫓復元などに役立ててほしいという意向で、匿名を希望している。市によると、昨年末に「櫓の復元などに私財を役立てて」と申し出

があり、市の銀行口座に10億円が振り込まれた。上田城は1583年に真田幸村の父昌幸が築城。1600年の関ヶ原の戦いの後破壊され、江戸時代に復興された。7棟あった櫓は明治初期に相次いで解体され、現存するのは3棟のみ。(土屋弘)

(2) 創業の宝庫 微生物銀行に期待
筑波大山岳科学センター 菅平高原実

験所は、生態系の多様性が微生物との共
環境を構成するための基本的な条件

菅平の草原は微生物の「銀行」

京都大生態学研究所(大津市)の東樹宏和准教授らの研究グループは19日までに、筑波大山岳科学センター菅平高原実験所(上田市)敷地内の草原の植物137種を調べ、葉や根に創業や農業への応用が期待される数多くの微生物が共生しているとの研究成果をまとめた。グループは、草原は必要に応じて有用な微生物を取り出せる「銀行」とし、多様な生物が息づく草原を保全していく重要性を訴えている。

同実験所の田中健太准教授の呼び掛けで、東樹准教授、国立研究開発法人「森林研究・整備機構森

京大や筑波大が調査



菅平高原実験所の敷地で、夏の植物を調査する田中准教授＝2017年7月

多数の系統確認 創業などへの活用期待

林総合研究所(茨城県つくば市)の黒川紘子主任研究員が研究を開始。2017年7～9月に植物を収集し、共生する微生物のDNAを調べた結果、キノコやカビといった「真菌類」や細菌類など計1万3090系統を確認できた。植物に共生する微生物については以前から研究されてきたが、対象は少数の植物種に限られており、東樹准教授は「一つの草原生態系の中でこれだけ多様な植物を調べられたのは大きな成果」とする。見つかった微生物の中には、植物の成長促進や、医薬品の原料となる物質を生産する可能性があるものが含まれていたという。人間が手を入れなくなった草原では木が伸びて森林化が進み、草原が減少しているという。今回の研究は、草原の客観的な価値を示すとともに、警鐘を鳴らす意味もある。今後、データの蓄積と微生物の研究を進めることで、植物種と共生する微生物の関連性や、有用な微生物を取り出せるようになる」とみている。研究成果は20日、国際学術誌の電子版に掲載される。

であることを報じています。一方ではノルウェイの氷雪地下に世界種子貯蔵庫(注1)(遺産資源センター(NorGenの管理))もあります。(注)著者:スーザン・ドウオーキン、訳中里京子、地球最後の日のための種子文芸春秋社(2010)。

〈2頁の4段目終行から続〉写真右上:前日はねじ造りに大わらわ。右下:恒例の青刈藁馬のできばえ評。左:雪道に粉雪の舞うしびれる朝、母子は道祖神に集います。(真田地域自治センター提供)



上田市成人式での晴姿：2019年1月13日（日）、真田中央公民館、出席者83名（該当者93名）、祝辞：上田市長土屋陽一様（写真は真田地域自治センター地域振興課提供による）

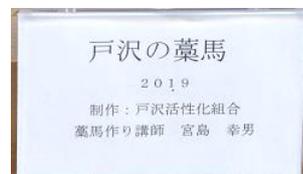


私たちとっても大きなもの背負ってしまったような気がする・・・、そだね

平成30年ふるさとの行事（春～夏）

- 1) 第16回上田城千本桜まつり
4月6日（土）～4月21日（日）（注1）
- 2) 第37回上田真田まつり 4月29日（月・祝）
- 3) 真田氏歴史館特別企画展 7月10日（水）～9月30日（月）
- 4) お屋敷つつじ祭り 5月19日（日）
- 5) 第33回菅平高原カントリーフェスティバル
6月2日（日）（注2）
- 6) 第35回真田まつり（含花火大会） 8月3日（土）

＜問合せ先＞（注1）上田市観光課 Tel 0268-23-5408、
（注2）菅平高原観光協会 TEL 0268-74-2003、そのほかは
真田地域自治センター産業観光課 TEL 0268-72-4330



銀座で真田めっけ：「銀座 NAGANO」のたたきで戸沢藁馬さんに遭遇。2019年2月4日理事会の直前。

1. 新会員ご紹介のお願い

東京真田町の会の皆様には常日ごろ本会の運営にご協力をいただき誠にありがとうございます。

本会は設立からこれまで30年余りの歳月にわたって、会員相互の親睦を図るとともに、ふるさとの皆さまとの交流を深め、会員の活躍とふるさと真田町の発展に寄与することを念頭において、ともに歩んでまいりました。これらの活動を継続してこられたのも、上田市および真田町のご支援と会員諸先輩のご努力の賜ものであります。今後もこれらの活動が継続していくためには、社会の変化に応じて会の存在意義をもとめて、新しい会員を迎えること、さらに本会の存在が広く知られること、が重要であると思われまます。皆様のご交際の範囲で会員に推薦したい方がおいでしたら、会長または事務局までご連絡下さいませよう、よろしくお願ひします。

2. 年会費納入のお願い

平成28(2016)年度からの年会費は1,500円となっております。つきましては、2019年度の年会費1,500円を同封の郵便為替用紙(口座番号:00110-1-255577、加入者名:東京真田町の会)で払込みください。遡って、平成27年度(1000円)、および平成28~30年度(ともに1500円)の年会費未納の方は、あわせて上記の口座番号へ払込みくださるようお願いいたします。

3. 会報「日本ダボス」第32号発行にあたってのお願い

本年2019年も12月末に日本ダボス第32号の発行準備を進めております。2018年には本誌を会員の皆様と真田町の約3,500戸に配布しました。これによって、会員のご活躍ぶりを故郷のみなさんへ、また故郷の動きなどを会員にお知らせしています。毎年のごことで恐縮でございますが、本誌の発行にあたっては次のようにご協力を仰いでおりますので、よろしくお願ひいたします。

3.1 32号の表紙には航空写真「空から見たわが町わが母校」を予定しています。風雪に耐えた舎の日だまりには私たちの日々がありました。わらべうた聞こえる・・・、友や先生との思い出、期末試験のこと、電車見えるまで畔のどじょうを・・・、ひばりを追ってくるに・・・、などゆったりと過ぎていた情景などをご投稿下さい。写真は複写したものをお送り下さい。担当理事は一之瀬和夫です。

3.2 「広告掲載」へのご協力とお申込み:担当は柴田小夜子副会長、および深町共榮副会長です。

3.3 下記の1)から4)に、原稿や広告の締切日、文字数、および送付先などをご案内します。

1) ご寄稿あるいは投稿いただく文字数は1,600文字程度(顔写真、風景画など含めず)です。大きな集合写真から切り抜いた像は不鮮明になりがちですので、近接撮影したものをお送りください。

2) 日本ダボス第32号に掲載する原稿と広告の締め切りは2019年10月10日です。

3) 送り方法:原稿と顔写真、及び広告原稿は電子メールに添付するか、下記一之瀬あてに郵送して下さい。なお、総会案内に同封した返信はがきの「近況欄」記事も日本ダボスへ掲載します。

a) 一之瀬和夫 〒252-0215 神奈川県相模原市中央区氷川町4-10 ☎042-776-1733 (Faxはありません)

b) メールアドレスは iax-0198@jcom.home.ne.jp [読み:アイエイエックス 中ハイフン4桁数字]

4) 広告掲載料金のご案内:右表にモノクローム(白黒)印刷の広告掲載料金を示します。カラー印刷の場合には本表の2倍の価格になります。掲載料のお支払いでは、会報のお届け封筒に請求書と振込用紙を同封しますのでご利用ください。

広告の大きさ(縦×横寸法)		掲載料金
名刺サイズ	50×90mm	5,000円
1/4頁	50×180mm	10,000円
1/3頁	80×180mm	20,000円
1/2頁	120×180mm	30,000円
1頁	240×180mm	50,000円

4. 編集後記

昨年(2018)年第31号には、本荘市は佐々木様から「真田ゆかり」の記事を二編、皆様からはふるさとの記事や小中学ころの思い出、できごとなどをご寄稿いただきました。

第32号には皆様の記憶の彼方に留まっている「こんなできごと、あんなこともあった」(思いつくまま)などを、

ぜひご投稿いただきたいので、よろしくお願ひします。申込み方法では、同封の返信葉書へ<ダボスへ投稿希望:仮題○○>などと記入して下さい、のちほど編集部からご案内いたします。

しらかば通信 [平成31(2019)年3月31日発行]

発行 東京真田町の会 会長 金子 誠 〒364-0035 埼玉県北本市西高尾4-156

Tel & Fax 048-591-4728

事務局長 神田 幸雄 編集部 一之瀬 和夫